

「大分さくら祭り」を開催しました！

本市では、中国武漢市との長年に亘る友好都市交流で培われた信頼関係を経済分野に活かし、中小企業者の海外販路開拓を支援する「友好都市間交流ビジネスチャンス創出事業」を実施しています。

その一環として開催された「大分さくら祭り（大分フェアin武漢）」について、今回はご紹介します。

大分さくら祭りの開催内容

「大分さくら祭り（大分フェアin武漢）」は、計画当初は2011年12月に開催する予定でしたが、昨年3月に発生した東日本大震災の影響により、日本からの輸出が滞ったことから、2012年3月16～25日に変更して開催されました。

会場は、2011年10月に武漢市内に開店したばかりの大型高級ショッピングモールで、同店舗内には、大分市のケーキショップ「ベルクール」丸山シェフが技術指導を行うシュークリーム専門店があり、大分産品を販売・PRするには絶好の場所でした。

「大分さくら祭り」は、商業施設で大分産品の展示即売を行うもので、過去にも同様の展示即売会を開催していますが、これまでと大きく違う点は、ショッピングモールの店舗外に屋台を設け、カレーライス、焼きそばなど日本でお馴染みのメニューに加え、大分の郷土料理である「とり天」を実演販売したことです。（屋台での実演販売は、日本からの参加者が渡航した3/16～3/18、3/23～3/25に実施。）

また、屋台周辺や店舗内の通路には桜の木（造花）を配置し、会場周辺で団扇を思わせる円形の販売促進用チラシを配布したほか、スタッフは今回のフェアに合わせて作製された桜を連想させるピンク色の法被を着用するなど、日本のお祭りをイメージした演出をすることにより賑わいをもたせ、集客効果を高めるようにしました。

過去にも、販売する商品の横で試食品の調理を行ったことはありましたが、販売したのは今回が初めてで、屋台で販売する

メニューは日本と同じ味の提供を目指したことから一部の原材料が武漢市では調達できないなど、準備に大変苦慮しました。

大分さくら祭りの成果



実演販売の様子

当初は、お客さんが来てくれるのか、商品が売れるのか不安でしたが、いざ始めてみると、屋台での実演販売は予想を上回る盛況がりで、スタッフは調理・販売・仕込み等に追われ食事をとる暇もないほどでした。

連日、朝早くから夜遅くまで運営にあたることになりましたが、中国人のお客さんから「おいしい！」と言われたり、武漢市に住んでいる日本人の方から「久しぶりに日本の味を堪能できました。」というお声をかけていただき、大変嬉しく思いました。

ただ、通関時の必要書類が3月1日から突然増えたことにより、店舗内で販売するために事前にショッピングモール側が買い取った5社42品目のうち2社4品目が中国側で通関できず、フェア期間中に武漢に届かなかったことから、店舗内での販売商品数が少なくなるという不測の事態が起きてしまいました。

このことから、店舗内の商品販売額よりも店舗外の屋台での販売額のほうが多くなり、屋台での集客を大分産品の販売に活かすことができなかったことは非常に残念でした。

しかし、会場となったショッピングモール運営会社の副社長が視察に訪れた際、賑わっている会場を見て好印象を持った様子で、今後も大分産品の販売に対し協力をしてくれると言ってもらえたことは大きな収穫でした。

また、他のスーパー関係者も会場へ視察に訪れ、同様のイベントを開催してほしいとお話をいただきました。

これらのことは大きな成果であり、今回のフェアの目的である恒常的な取引の確立に向けた今後の交渉に期待が持てる結果となりました。

今回の成果を武漢市での大分産品の販売定着に活かすべく、今後も更なる企業支援を行っていく所存です。



会場となったショッピングモール



屋台周辺の様子



店内販売の様子